



常設展示室「ミレー館」の特徴的な壁の色は、土や当時ミレーが出品していたサロン会場の壁の色をイメージしたもの。

「フランス美術」の収集を方針の一つとした。その後も1850年代の作品を中心に収蔵を重ね、現在では国内で最も多い約70点のミレー作品を有するほどになった。2009年には常設展示室をリニューアルし、「ミレー館」をオープン。雰囲気ある室内では油彩を中心に常時ミレーの作品が展示されている。この大きな特徴は壁面の色。第1室は当時のフランスのサロン会場の壁の色をイメージしており、絵画と相俟って彼の生きた時代の雰囲気を味わえるだろう。

SPOT
01

山梨県立美術館

日本で一番多くのミレーに出逢える美術館。

1978年に開館し、一昨年には開館35周年を迎えた山梨県立美術館。「ミレーに出逢える美術館」として知られるこの館は、ミレーやバルビゾン派、さらにヨーロッパの主要な風景画家の優れた作品のコレクションが特徴的だ。美術館建設前『種をまく人』『夕暮れに羊を連れ帰る羊飼いの2点を購入したことがきっかけとなり、現在も掲げている「ミレー、バルビゾン派を中心とした19世紀のフ



ジャン＝フランソワ・ミレー
《落ち穂拾い、夏》 1853年



右上/ジャン＝フランソワ・ミレー《種をまく人》1851年 リトグラフ

左上/ジャン＝フランソワ・ミレー《「種をまく人」の習作》1849～1850年

左/ジャン＝フランソワ・ミレー《種をまく人》1850年

※032～036頁の作品は、全て山梨県立美術館蔵

